

都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議（みやこねっと） 議事要旨

日 時：令和6年9月26日(木) 14時00分～15時15分

場 所：都島区役所 第5・6会議室

出席者：名簿のとおり

(欠席者) 都島区歯科医師会 三宅会長
都島区薬剤師会 鈴木会長
都島区民生委員児童委員協議会 土屋会長
都島警察署 久代署長
都島区地域包括支援センター運営協議会 柏井委員長

議 事：

1. 地域包括ケアを進める上での課題について（事例）

資料1により、地域包括ケアシステムの構築、事例①②及び課題等を事務局より説明

…資料1

事例については、実際のケースを基に作成したものであるが、当会議で議論していただき易いように作成しているため一部事実と異なる箇所があることを補足説明

事例2については、市長による後見等申立てを行った事例であるが、本来、申立てを行う能力がある場合は本人による申立てを行うことになるが、今回のケースは本人及び親族による申立てが望めないとの判断で市長による申立てとなった。将来、自分の判断能力が衰えたとのために、自身で後見人を選ぶことができる任意後見制度があるが区民の方々にはあまり認知されていない印象がある。自分の希望等を事前に伝えておくことができるメリットがあるため任意後見制度について周知する必要があると補足説明

※資料1の事例②については、個人の特定に繋がる恐れがあるため非公開としています

「もしもの時に伝えるシート」の作成に至った経緯や活用事例について竹下委員より説明

…資料「もしもの時に伝えるシート」の活用事例

委員からの意見（資料1に記載の五つの課題にかかる主な意見）

・通院時の診察の場面では認知機能の低下が見受けられないが、「自宅では認知機能の低下が疑われる行動が多くある」とケアマネージャーからの連絡が入ることで、把握できるケースがあるため情報連携は大切と感じる。

- ・みな医療が関わっているとは限らないが、自分らしい生活については、本人の考える理想と支援者が考える理想に差がある場合があるため、本人の考えを尊重し一定の距離を保ちながら見守る程度の支援が有効なケースもある。
- ・地域での高齢化が進む中、地域の見守りの一環として町会未加入の高齢者への声かけをするも、干渉して欲しくないと言われることもあるが、ご近所及び地域で助け合うことが大切であると思うので是非、町会加入の促進に協力して欲しい。
- ・地域でも「もしもの時に伝えるシート」等を活用したいと思う。
- ・包括支援センターの運営については、自治会からの高齢者住民の相談や百歳体操の実施相談等をきっかけに関係を作り、そのネットワークから高齢者の相談等につないでいただくことが求められていると考える。金銭管理に関してはあんしんサポート事業、その他、あんしんカプセル事業も実施しているので必要があれば相談して欲しい。
- ・支援拒否の高齢者の意思決定支援に苦慮している。今後、身寄りのない高齢者等の増加が見込まれる中で、ケアマネジャーの高齢化及び成り手不足等が課題と感じる。地域の方へ協力を求めたいケースがあっても守秘義務があるため悩ましい。
- ・ACPについて、専門職の方々が積極的に活動するとともに、高齢者が元気なうちに自分がどうしたいのかを考えてもらえるような啓発が必要と思う。
- ・消防署においては、救急対応時、玄関扉が施錠されている場合には扉等の破壊許可を得る必要があるが、親族等の連絡先が分からない又連絡がつかない時は、現場で難しい判断を求められることがある。あんしんカプセルの取り組みの有無は区ごとで異なり、必ずしも救急活動であんしんカプセルを活用できないケースがあることも想定しておいて欲しい。「もしもの時に伝えるシート」が全市での取り組みに広がれば、「同シート」に取り組んでいる都島区と他区との救急対応に相違なく統一的な救急対応が図れることで、さらなる「同シート」を活用が期待できると思う。「もしもの時に伝えるシート」の緊急連絡先欄に、救急対応時の連絡時に活用しやすいように所在市を記入する項目を設けていただくと助かる。
- ・認知症のイメージを良く思っていない高齢者が受診を敬遠し、症状が進行するケースがあると思われる。来週木曜日（10月3日）に開催予定の区民講演会では、認知症と上手く付き合い趣味を楽しみながら暮らしておられる当事者に話をしてもらうことで認知症のイメージを変えてもらえるよう実施するので是非ご参加して欲しい。
- ・高齢者が孤立せず地域と繋がるためにも、地域の居場所、地域資源などをアナウンスすることが大切と思う。

2. 高齢者に関する都島区の課題の共有 … 資料2

資料2に基づき小阪氏（生活支援体制整備事業協議体事務局）より説明